

# 室蘭市観光拠点づくり 提言書 (12/18案)



平成30年 月 日  
室蘭市観光拠点づくり検討委員会

## 目次

I	はじめに .....	1
II	検討の前提となる事項	
	1. 基本方針 .....	2
	2. 検討対象エリアとターゲット .....	2
	3. 当該エリアの現状と課題の抽出・分析 .....	3
III	観光拠点づくりの方向性 .....	3
IV	見直し案（提言）	
	1. 道の駅『みたら空蘭』 .....	4
	（1）飲食・物販 .....	4
	（2）情報発信 .....	4
	2. 道の駅周辺エリア .....	5
	（1）屋台村 .....	5
	（2）動線 .....	5
	（3）その他 .....	5
V	おわりに .....	7

# I はじめに

白鳥大橋記念館・道の駅『みたら室蘭』は、「道の駅『みたら室蘭』魅力アップに向けた提言」（平成 23 年 11 月 17 日）を基に、駐車場を拡張し客動線を確保したほか、売店の配置や販売方法の見直し、取扱い商品の拡充などを実施してきました。

この魅力アップにより、年々入込客数及び売店利用者数が増加し、それぞれ平成 28 年度は実施前と比較し倍増するなど、一定程度の効果があったところです。

平成 28 年 3 月の北海道新幹線開業、平成 30 年 6 月の室蘭宮古フェリー就航など、室蘭市の観光を取り巻く状況の変化を見据えた、各ニーズに対応した更なる魅力アップを図る事により、交流人口拡大、観光消費額の増加を目指していく必要があります。

室蘭市で最も多くの観光客が訪れている道の駅『みたら室蘭』周辺エリア（以降「当該エリア」とする。）を室蘭市の観光拠点として磨き上げていくための具体的方策について、検討委員会で討議し、核施設としての道の駅『みたら室蘭』のあり方、当該エリアの今後のあり方について取りまとめましたので提言致します。

室蘭市観光拠点づくり検討委員会  
委員長 永井 真也  
委員一同

## Ⅱ 検討の前提となる事項

### 1. 基本方針

「室蘭市総合計画」で掲げるまちづくりの目標である「豊かな自然や食、ものづくりを活かした、訪れたいまち」を目指すため、「室蘭市観光振興計画」では、室蘭市観光の推進にあたり、「市をはじめ市民や市民団体、事業者、観光関連団体が協働して積極的に観光のまちづくりを担い、まちを活性化し、滞留・滞在型観光のまち室蘭の実現を図る」ことを基本理念としている。

また、「室蘭市総合戦略（平成27年10月）」では、具体的に観光客受け入れ態勢の整備や観光拠点の整備検討により、平成31年度の市内観光入込客数140万人を目指すという数値目標を掲げている。

室蘭市内の観光資源をつなぐ観光拠点を整備し、その魅力を高め市内への周遊を促進していく事により、市内全体の観光消費拡大と地域活性化を目指す。

### 2. 検討対象エリアとターゲット

白鳥大橋をはじめ、白鳥大橋記念館・道の駅『みたら室蘭』のある祝津・絵鞆地区には、屋台村、水族館、マリナー、パークゴルフ場、温泉施設、展望台、親水緑地等が整備され、イルカ・クジラウォッチングや外海遊覧も行われていることから、海洋性レクリエーションにも特化し、室蘭市における一大観光集客エリアと位置づけられ、地球岬とともに西胆振観光の周遊コースとして、行楽シーズンには大勢の観光客が訪れている事から、当該エリアを観光拠点づくりの検討対象エリアとする。

道の駅『みたら室蘭』は、道路利用者の立ち寄り以外に、観光客、周辺施設の利用者、さらには地元住民にも利用してもらえるような施設であることが望ましい。

しかし、「誰にでも利用してもらう」ことは難しく、消費拡大に向けてメインとなるターゲットを明確にし、利用者に確実に消費してもらう事をまずは目指すべきである。

平成27年度に室蘭市が実施した「観光客実態調査」を基に、ターゲットを「札幌圏の30代・40代」「夫婦・カップル」とし、まずは今後も来訪の可能性の高い既存の観光客のニーズに充分に対応していくことが必要である。

### 3. 当該エリアの現状と課題の抽出・分析

#### (1) 現状

室蘭市の観光入込客数（平成 28 年度）は 128.7 万人、「白鳥大橋記念館（道の駅『みたら室蘭』）」は 65.1 万人で、いずれも近年増加傾向にある。また、「白鳥大橋記念館（道の駅『みたら室蘭』）」は室蘭市を訪れる観光客の半数がここを訪れている。

「室蘭市総合戦略（平成 27 年 10 月）」では、平成 31 年度には市内観光入込客数 140 万人を数値目標として掲げており、観光客の受入体制の整備や観光拠点の整備検討、観光資源をつなぐ拠点整備の検討等が益々必要となっている。

#### (2) 課題の抽出・分析

道の駅『みたら室蘭』及び道の駅周辺の強み・弱み等を整理しながら、具体的に実施すべき方向性について検討した。

##### 【当該エリアの強み・弱みの整理】

##### 【強み】

- ・景観の良さ
- ・集客施設の集積
- ・道の駅の飲食・物販機能の見直し可

##### 【弱み】

- ・飲食機能の不足
- ・物販機能の不足
- ・情報不足
- ・観光消費額の低さ
- ・構造上の課題
- ・冬期対応
- ・立地の悪さ
- ・財政状況

## Ⅲ 観光拠点づくりの方向性

構造上の課題、冬期対策、立地の悪さ、財政状況というのは今すぐに克服できるものではないが、飲食・物販・情報機能の不足や観光消費額の低さについては改善する事ができる。

来年度より既存施設の飲食・物販における制限が無くなり、見直しが可能となる機会を活かし、まずは、現状の「弱み」の部分を補強していく必要がある。

以下、検討内容を提言とする。

## Ⅳ 見直し案（提言）

### 1. 道の駅『みたら室蘭』

#### （1）飲食・物販

当該エリアへの観光客の滞在・滞留時間の延長のためには、軽食等の飲食機能の充実が必要である。また、地域特産品等のおみやげを求めて訪れることから、多種多様な商品が並び、見て取って選べる楽しさと、品揃えが必要である。平成 29 年度末で白鳥大橋記念館建設当初の制限が無くなるため、これを機に以下の方策を講じていく必要がある。

- 室蘭の特色を活かしたグルメや特産品の紹介を主とし、道の駅での飲食はテイクアウトできる軽食程度の提供からはじめ、併せて市内の商店街への誘導を促進する
- 商品の種類を増やすため、事業者に棚の一部を貸し出すチャレンジショップを設ける
- 生鮮品の直売については、常設は品揃えが必要であるため、シーズンに旬のものを工夫して出すなど催事販売から実施する

また、飲食・物販提供にあたっては、以下の方策にも配慮する必要がある。

- 夜景や夕陽など景観を活かし飲食ができるよう、曜日限定や開店時間を遅くするなど、飲食・物販施設の営業時間の見直しを検討する
- 少しでも気持ちのいい空間をつくる事が滞在時間を長くするため、景観を活かした心地よい休憩空間づくりに努める
- 商品の配置や陳列、客の動線などは専門家（コーディネーター）の意見も取り入れながら実施する
- 商品を十分に陳列できる場所を確保するため、物販と休憩スペースの確保を検討する

#### （2）情報発信

情報収集のため訪れる観光客が多い道の駅として、観光客をはじめ地域住民のため、当該エリアの情報、市内観光スポットや飲食店、イベント等の情報等、PR の仕掛けづくりについて、以下の方策を講じていく必要がある。

- 道の駅『みたら室蘭』内で、周辺施設や市内の観光施設の情報提供を行う
- 飲食、物販の販売員を含めた観光案内できる体制を強化する
- 白鳥大橋記念館の必要な資料や展示物を整理し、多目的スペースを確保する
- ポスターやパンフレットは、観光情報と市民へのお知らせを分けるなど、掲示場所や設置期間を定め、見やすくわかりやすい情報提供に努める
- 

## 2. 道の駅周辺エリア

### (1) 屋台村

白鳥大橋記念館内での飲食・物販の制限により、その機能を補完してきた屋台村だが、利用客の減少に伴い、営業店舗が安定していないため、以下の方策を講じていく必要がある。

- 道の駅『みたら室蘭』内の飲食店メニュー表の横に屋台村店舗のメニュー表も並べて掲示し、屋台村に誘導するような仕掛けづくりを行う
- 

### (2) 動線

平成 23 年度の「道の駅みたら室蘭魅力アップトーク」後、駐車場を整備し、道の駅から屋台村、親水緑地への動線確保と利用促進を図っているが、より高い効果を得るため、以下の方策を講じていく必要がある。

- 道の駅『みたら室蘭』と水族館のスムーズな動線を確保する
- 道の駅『みたら室蘭』と屋台村・親水公園のスムーズな動線を確保する
- 

### (3) その他

持続的な魅力を高めていくためには、観光客だけでなく、市民も楽しむためのものも必要であることから、以下の方策を講じていく必要がある。

- 観光シーズンには、集客のため道の駅『みたら室蘭』入口付近で開催するイベントをできるだけ多く企画する
- 集客効果の高い『朝市』など直売イベントの定期的な開催を検討する
-



## V おわりに

「観光拠点」は観光客がその土地の文化、歴史、名所、特産物などの情報を得て、観て、食べて、体験するための重要な役割を担い、個性豊かなサービスを提供できる場所である事が望まれます。

また、観光客のみならず、市民も利用したくなるような心地よい休憩空間を提供する事により、地域の核が形成され、活気ある地域づくりや地域連携が促進される効果も期待できます。

更に、当該エリアから市内各地への周遊を促し、地域活性化、観光消費額の増加につなげるなど、観光名所や飲食店などへ「つなぐ」役割も果たします。

室蘭市が計画している「観光拠点づくり」が地域と共につくる個性豊かなにぎわい創出につながり、室蘭の特色を活かした魅力的な観光のまちづくりが推進されることを強く期待し、提言いたします。